丹波篠山・福の住む里
福住さとねっと
Fukusumi Sato Net

令和６年４月２１日
第　１７２　号
発行：福住地区まちづくり協議会
〒669-2513　丹波篠山市福住 342
TEL＆FAX：079-557-0116
メール：fk.machikyo@gmail.com

地域おこし協力隊員 稲（いな）ちゃん活動報告！

退任の挨拶と新年度の活動予定について

掲題の通り、３月末を以て地域おこし協力隊の任務を終了いたしました。任期は最長で２年間でしたが、家庭の事情もあり、１年間での卒業を願い出ました。４月以降は、地元の大阪へ帰り、神戸三宮で鍼灸院を開業する予定ですが、福住地区でも、福の里農業小学校のお手伝いや、地区内のゲストハウスでの出張鍼灸施術を通じて、活動を継続させていただければと願っております。１年間の活動期間の間に、丹波街道の歴史や、本陣が構えられた福住地区の特性などについて学ばせていただき、今日も尚、東西を行き交う多くの旅人が立ち寄る当地の魅力の源泉を知りました。

ところで、「月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり」と詠んだ松尾芭蕉は、脚の三里に灸を据えていたことで知られています。私の目標は、昔日に旅籠の宿泊客が経験した鍼灸按摩や灸のサービスの再現により、特に海外からの福住への訪問客を呼び込むことです。定常的な誘致の実現に向け、取り組みを進めて参ります。

１年間お世話になりありがとうございました！

～ 稲田　健一 ～

NPO 法人 SHUKUBA「米粉の日」

●**加工賃**：1kg あたり 420 円
●**真空パック**：1kg あたり 25 円
●**申し込み**
ご希望の方は加工所営業時間に
電話（０８０－９５３４－４２７５）まで
●**営業時間**：月・水・木曜日の午前９時～午後５時

「米粉の日」は、**毎月第４木曜日**に定期開催！
４月は 25 日（木）、５月は 23 日（木）開催予定です。※その他の日でも相談頂ければ対応いたします。

みなさんからの「福住さとねっと」への
投稿・情報提供お待ちしています！
＝さとねっと編集部＝

「宿場町福住ひなまつり 2024」

～伝統的建造物群保存地区福住の町並みで～

５年ぶりとなる「福住ひなまつり」を３月 15 日（金）～17 日（日）の３日間、さんば家ひぐちで開催しました。

雛段、吊るし雛、稲畑人形をセットする作業には、皆さん、不安一杯でしたが、福住地区まちづくり協議会、構成員のメンバーに加えて、福住手芸クラブのみなさん、関西国際大学の学生のみなさんのお陰で、飾り付けが、立派に賑やかに出来ました。

そして、「福住さとねっと」や魅力的なチラシ、有線放送と、フェイスブックと前宣伝のお陰でしょうか、非常にたくさんの方に、来場して戴き、様々な思いで、楽しんでおられるようでした。

「さんば家ひぐち」は、県民交流広場事業としてリフォームされた立派な施設です。

これからも、もっと皆さんと一緒に考え、活用しましょう！

消防団詰所　改修工事完成！

老朽化のため、昨年の 11 月ごろから行われていた消防団（第１分団第３部）詰所の改修工事がこのほど終了し、3 月 17 日（日）に団員が集まり、きれいになった詰所に荷物等の運び込みが行われました。これまで無かったトイレも設置され、壁や屋根などもきれいに塗装、張り替えられました。

ふくすみの動き（令和６年３月末現在）　○ 人口　1，１９９人（前月比 －６　○ 世帯数５８８戸（前月比 －1）

今年のさくらも満開、きれいでした！

①奥原山集落、花が映える季節 到来！

奥原山集落の前自治会長　奥田さんから投稿いただきましたのでご紹介します！

またまた奥原山集落に花が映える季節がやってきました。毎年ご掲載いただいている「福住さとねっと」で、今年も「令和５年度ひょうごアドプト活動」の一環として、奥原山集落内の県道沿いに、「花苗のプランター」を 30 鉢展開しています。

今年もウォーキングされる地元の方や、ゴルフ場へ来るゴルファーの目を楽しませられたらと思います。

今年は過去２年の教訓から、鹿などの獣害対策として、プランターをメッシュで囲って育てることにいたしました。奥原山へお越しの際はぜひ見ていただきたいと思います。

②奥原山集落 春の風物詩「奥原山慰霊祭」

奥原山集落では、３月 24 日（日）に「奥原山慰霊祭」を開催しました。

奥原山集落では、過去の戦争で戦死された御霊３柱を祭っており、毎年春のお彼岸には、琴松寺の住職にお経をあげてもらって住民が追悼が行います。

第３回古文書講座を開催！

福住村の茶荷物論争
～後世に解決を託された『庭売一条』Part2～

＝SHUKUBA 情報＝

２月 28 日（水）の第３回の古文書講座について、前号の続きを掲載します。

＜後々(のちのち)心得(こころえ)之(の)事(こと)＞

今回の事件が代官の判断で、棚上げになったことから、山田加右衛門は「後々心得之事」として、後世に望みをつないでいます。「他領商人の庭売（直接販売）は後世に利口(りこう)才知(さいち)（道理が良くわかる賢明な人）により解決してほしい。」と考えていました。また、「茶荷物以外の穀物の違法な出荷についてもこの機会に制止したかったが、茶荷物と穀物を同時に問題とすると、領内のいろいろな村を相手にしなければならないので茶荷物に限って問題にした。」さらに「茶荷物については曽地・後川以外の村では、絶対に抜け荷をしてはならない事になったので、穀物も同じように取り計らってほしい。」と主張すべきであると考えていました。

郡取締の荒木甚之丞(じんのじょう)からは、「①穀物の荷抜けを止めさせようとすると、曽地・後川に加えて八上・新村とも争わなければならない。茶荷物のみの論争をする方が良い。②穀物も問屋を定めて売買する品については茶荷物と同じように宿駅(しゅくえき)を通じて行うほうが良い。③百姓が少しの量を直接販売するのは良い。」との話がありました。

山田加右衛門はさらに「後川への穀物移送を止めさせるなら、大雲（大芋）から須知（京丹波町）への抜け荷も取り締まらなければ解決しない。」とも考えていたようです。この史料では、庭売（直接販売）の結論を後の世に持ち越す事になりました。山田加右衛門は抜け荷の問題は茶荷物だけではない、庭売の問題を後世に棚上げすることにもどかしさを感じながらこの事件を述べています。

参加者の皆様からは「古文書からまちの歴史が知れてとても興味深かったです。」「江戸時代にも商売上のトラブルが色々あったのですね。何回も集まって、現実的な解決をされたのですね。」「篠山を中心に産物の動きや人の思いが分かった。大変、興味深かかった。」等々のご意見をいただきました。

今年度も福住を教材として古文書による福住での出来事を紹介したいと思います。

ご関心のある方のご参加をお待ちしています。

田植えの準備にむけて！

福住地区内では４月の初旬から各所で川から水を吸い上げるポンプの点検や水路の清掃が行われています。

いよいよ田植えに向けて準備が始まりました！

雨の降る日が多く、なかなか作業が進みませんが、いよいよ田んぼに水が張られ、きれいな水田の風景が見られますね！